

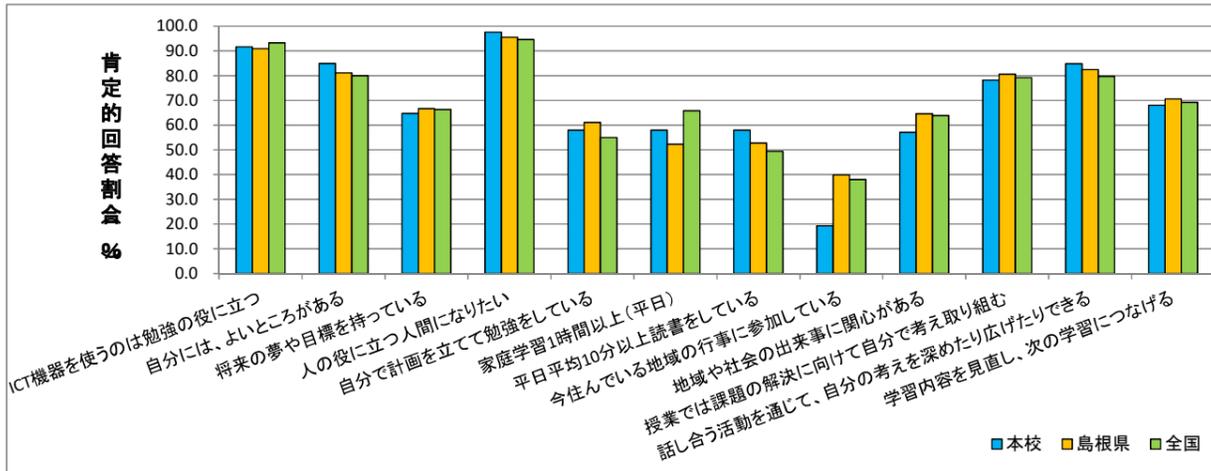
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○全体にわたり、正答率はおおむね全国平均と同等である。 ○無回答率が低い。 ●意見と根拠など、情報と情報との関係を整理してとらえることに課題がある。 ●読み手の立場に立って、叙述の仕方などを適切に整えることに課題がある。	・説明的文章において、原因と結果、意見と根拠など情報どうしの関係に留意させるよう、思考ツールなどワークシートの工夫をする。 ・単元ごとに書く活動を取り入れる。
数学	○どの領域も概ね県平均を上回っている。 ○無回答率が低く、自分の考えを説明する力も高い。 ●少し複雑な文章を式や図にする力に課題がある。 ●数学への関心が低い傾向がある。	・問題文を読み取る活動をていねいに進めていく。 ・1、2年の既習事項の定着を図るよう、繰り返し指導する機会を作る。 ・数学への関心を高めるよう日常に生かされている例を話題にしていく。
英語	○グラフを伴った短い文章や1文のみを読み取る問題は、県正答率に近い正答率である。 ●日常的話題や事物について、まとまった量の情報を聞き取ったり、読み取ったりすることに課題がある。 ●自分自身や相手のことについての対話の中で、流れをふまえて適切な発話を考えたり、文章を書いたりすることに課題がある。	・まとまった量の英文から概要をつかみ、必要な情報を正しく捉える力が身に付くよう、読解・リスニング活動で提示する文章の量を段階的に増やす。 ・他生徒やALTとのコミュニケーション活動の機会を充実させ、話すことと絡めてふさわしい文を書く活動を、継続して設ける。

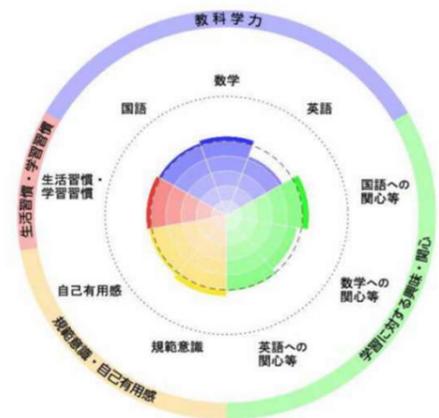
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○学年での集団作りの活動を計画的に行った結果、達成感が得られ、自己肯定感が高い生徒が多い。教員との人間関係も良い。 ○キャリア教育により社会で人に役に立ちたいという意識が高い。 ●調査時は地域での交流活動や行事等も制限があったため、地域への関心が低い。	・総合的な学習の時間において、地域の事業所で社会体験学習を実施したり、町内や松江市内で地域づくりに貢献している方にお話ししていただいたりして、地域に対する理解を深め、自らの生き方を考える機会とする。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ふるさと教育を推進し、家庭・地域と連携することで、自分の住む地域に関心を持ち、地域の一員として様々な活動に参加する姿勢を育成する。  
・望ましい家庭学習の習慣化を促進するため、教科や学年ごとのみでなく、学校全体での取り組みを行う。(自学ノート、基礎力テスト)

【受検者数】  
119 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

貴校の数値の入力をお願いします。  
※「(記入にあたって)シート」参照

【生徒質問紙調査の結果データ入力】

選択肢	質問番号		本校	島根県	全国
1・2	(34)	1 ICT機器を使う	91.6	90.9	93.3
1・2	(4)	2 自分には、よい	84.9	81.1	80.0
1・2	(7)	3 将来の夢や目	64.7	66.6	66.3
1・2	(11)	4 人の役に立つ	97.5	95.5	94.6
1・2	(16)	5 自分で計画を	58.0	61.1	55.0
1・2・3	(17)	6 家庭学習1時間	58.0	52.2	65.8
1・2・3・4	(20)	7 平日平均10分	58.0	52.8	49.4
1・2	(29)	8 今住んでいる	19.3	39.9	38.0
1・2	(30)	9 地域や社会の	57.1	64.6	63.9
1・2	(37)	10 授業では課題	78.2	80.6	79.2
1・2	(40)	11 話し合う活動を	84.8	82.4	79.7
1・2	(41)	12 学習内容を見	68.0	70.6	69.2